

病理検査室から

病理診断医

佐野 仁勇 平 沙代子

病理検査室の主な業務は病理組織診断と細胞診断です。手術中に行う迅速検査や必要に応じての解剖検査もまた、重要な仕事と考えています。組織診断や細胞診断はここ5年間で、5万件以上がなされています。診断を行っているのは病理診断医で、ベテランと若手の常勤2名体制で行っています。細胞検査士は有資格者が5名在籍しています。

組織診断は内視鏡検査で取られた胃や肺などの小さな組織や、手術で摘出された大腸や子宮などの大きな臓器などについて検索を行います。検体組織を3ミクロン程に薄く切ってガラスに貼り付け、染色を行い顕微鏡で詳細に観察します。小さな組織では2, 3日、手術により摘出された大きな臓器では1週間ほどで診断が可能です。

細胞診断は全国的な乳がん撲滅運動の広がりなどもあって、よく知られるようになって来ました。これもがんを見つけるための重要な検査です。患者さんの体には、組織検査に比べてより負担の少ない簡便な検査で、健診にも効果的な方法です。検体の種類にもよりますが、1週間程度で診断が可能です。



ただし、これら組織診断、細胞診断でも難しい症例やさらに特殊な染色が必要な症例もみられます。その場合には、よりの確な報告を行うために上記以上の時間がかかることもありますのでご承知置きください。

今後とも全力で的確な診断を心がけてまいります。

☆子宮頸がん検診を 受けましょう！

全国で年間、6千人ほどの方が子宮頸がんで亡くなっています。また近年は若い人の発症が増加していて問題となっています。しかしながら、子宮頸がんは原因としてヒト・パピローマ・ウイルス（HPV）が主役を演じる事が判明し、そのHPVに対するワクチンも開発されて、がんの診断、予防に大きな期待が寄せられるようになって来ました。

わが茅ヶ崎市でも中学、高校生に対するHPVワクチン接種や成人の子宮頸がんの健診体制が整いつつあります。それらを利用すれば子宮頸がんの予防、早期発見が充分可能です。仮に発症しても、早期なら子宮全体を摘出せずに温存できて、妊娠、出産も可能な治療法が実施されつつあります。少なくともそれで命を失うことはほぼなくなるでしょう。

がんの最終診断は私たち、病理医、細胞検査士の仕事です。精一杯、迅速で的確な判定を心がけて行きます。皆さんも是非、先のワクチン公費助成制度（対象：中学1年～高校2年相当の女子）、健診制度（検診クーポン券あり）なども利用して、茅ヶ崎市から子宮頸がんでの死亡率軽減を目指しましょう。

検診クーポン券、ワクチン助成制度についての詳しい内容は下記までお問い合わせください。

＜検診クーポン券のお問い合わせ＞

茅ヶ崎市役所 保健福祉部 保健福祉課 予防健診担当

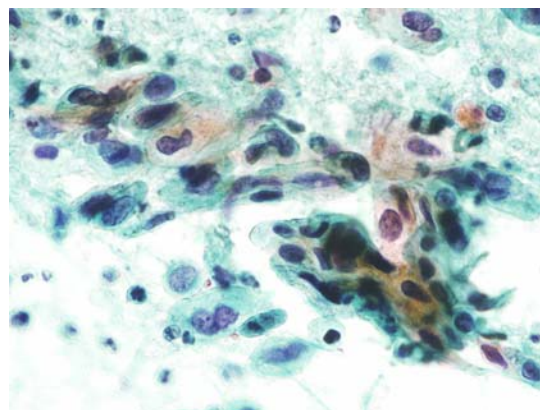
＜ワクチン助成制度のお問い合わせ＞

こども育成部 こども育成相談課 こども健康担当

電話：0467-82-1111



⇒ 正常な子宮の上皮細胞です



⇒ 異常があると細胞の大きさや形が不ぞろいになります